

富山県における菓子木型今昔

A Comparison of Present and Past Confectionary Wood Patterns in Toyama Prefecture

深井 康子

FUKAI Yasuko

I はじめに

平成13年度、14年度の卒業論文集^{1) 2)}において、富山県城端の菓子屋にある菓子木型を分類し寸法を測り、菓子製法道具を閲覧した。井波の菓子屋では、古くからある富山の代表的な糸巻き落雁の木型やその落雁の製法(写真1)について体験し、基礎的な知見を得ることができた。その成果を著者は、「菓子木型の形と歴史に関する基礎的研究」³⁾にまとめた。さらに平成15年度の卒業論文集⁴⁾では、富山県内の木型の実態を調査し報告した。このように菓子木型は、慶弔にはなくてはならない落雁や金花糖など昔から様々な形で暮らしの行事に使用されてきた。しかし、現在あまり使用されなくなったため木型があっても保管されたままで、その価値や彫りの美しさを見る機会も少なくなってきたと思われる。そこで本研究では、富山県内に調査の範囲を広げ、県内の菓子屋にある今なお現存する貴重な菓子木型の実態を把握するため、調査を実施することにした。そして用途別による木型の種類、その個数、使用状況や木型にまつわる思い出など、落雁文化が盛んだった頃の木型が語る生活様式について残しておくこ

とが今後の菓子の発展に受け継がれることを期待して研究を行うことにした。

II 調査方法

1 菓子木型の調査

(1) 調査時期

平成15年10月上旬に調査用紙を発送し、10月末までの約1ヶ月の間、郵送により調査を依頼した。

(2) 調査対象者

富山県菓子工業組合 吉田栄一理事長(有)月世界本舗)を訪問し、研究の趣旨を説明したうえで富山県菓子組合員の名簿をいただいた。この名簿をもとにして菓子屋に電話で木型の所持を確認し、調査に協力をしていただける菓子屋107店に郵送により協力をお願いし、回答してもらった。

(3) 調査内容

調査内容は、①創業年、②初代の屋主名、③現在の屋主名及び何代目、④用途別による木型の種類、⑤用途別による木型の個数、⑥木型の

(1)



(3)



(2)



(4)



写真1 糸巻き落雁の製法（河内屋）

使用状況、⑦木型にまつわる思い出や使用状況の7項目である。

2 菓子屋での聞き取り調査および現地調査

回答のあった調査用紙の中には、木型の閲覧や説明など著者が実際に出かけたうえで回答したいという菓子屋が多くあった。その中で本学に近い「かま屋」（小杉町三ヶ3658）を平成15年12月2日に食物栄養学科の卒業研究生と共に訪問した。ここでは、木型の閲覧や落雁の製法や原料、木型の使用度、用途などの聞き取りを行い、写真撮影を行った。また、平成17年7月中旬に朝日町の「島田菓子舗」より電話があり、店を今の代で閉めるので木型を差し上げたいと連絡があった。そこで、平成17年8月12日に代々伝わる木型を見せていただき、木型の思

い出などの話を伺った。

III 結果および考察

1 富山県内に現存する菓子木型

調査を依頼した菓子屋107店のうち71店から回答があり、調査用紙の回収率は72.6%であった。以下に調査内容の結果を示した。

(1) 菓子屋の創業年

図1に調査した菓子屋についての創業の年代を表した。創業年は江戸時代が8.5%（6店）、大正時代が15.5%（11店）、明治時代が19.7%（14店）、昭和時代が53.5%（38店）であった。調査した菓子店のうち、ほぼ半数以上が昭和時代の創業で比較的新しく、昭和の中でも昭和21年～40年の創業の菓子屋が19店と昭和の半分の

菓子屋をしめた。江戸時代の6店は、大野屋（高岡）、天谷菓子舗（天吉屋）（高岡）、坂井聖光堂（射水）、鈴木亭（富山）、三國屋（氷見）、五朗丸屋（小矢部）であり、富山の老舗といわれる菓子屋が見られた。

（2）地区別における木型の平均所持数

次に表1に富山県内の18地区別の木型の平均所持数を示した。その結果、1店舗ごとの木型の平均所持数は約16個であった。新湊地区が3店で1店舗あたりの所持数が最も多く、次に立山、黒部、砺波に多い。しかし、菓子の需要の減少などの理由により木型は現在あまり使用されていないようだが、思い出の品として捨てることもできず所持している菓子屋も多くみられることがわかった。

後述に富山県内の各店舗での現在の木型の使用状況とその思い出を記載したのでより詳しく木型の現状を知ることができた。また、戦災や火災などにより焼失したり、古美術商に譲渡したりなどして手放され、現在までに所持数が次第に減少していった様子を伺い知ることができた。つまり、木型についてはいずれの菓子屋でも現在ほとんど使用しておらず、使用していても限られた木型のみで、木型は無用の物として倉庫や蔵等に保管されているという時代の流れを感じた。

（3）木型の紋様・木型の紋様別店数

木型の紋様を分類し表2に表した。植物、食品が22種類で最も多く、次に有形物・果物が12種類、魚介類が10種類、動物・景色が8種類あり、全部で109種類みられた。店ごとの紋様別所持率で見ると、図2より魚介類が最も高く77.5%の店で持っており、次いで植物73.2%、動物43.7%・果物43.7%、食品29.6%、景色25.4%、有形

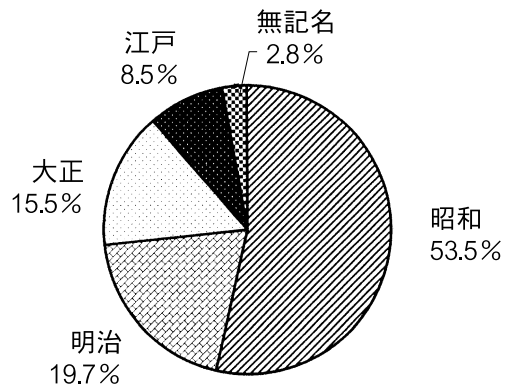


図1 創業の年代

物21.1%の順であった。その中でも鯛や菊、蓮など冠婚葬祭に使われる物の所持数が高かったが、それらは普段は全く使用せず、冠婚葬祭にのみ使用している店が多いためだと考えられる。富山に因んだものではホタルイカや雷鳥、立山などがあり、表2のその他でみられるように新川神社の紋や寺紋など、その時にしか使用されない一回限りの固有の木型などもあり、いずれも貴重なものであることが示唆される。

（4）用途別による菓子木型

虎屋文庫の「菓子型の世界」展（第46回虎屋文庫資料展）⁵⁾によれば山星屋の所蔵木型では寛政8年（1796）の「日の出形」が最も古いそうである。現在、日本の菓子木型は干菓子、練切や饅頭などの生菓子、桃山などの半生菓子に使用される。

ここでは干菓子に代表される落雁を中心に富山県の菓子屋に残る木型を表3に表わした。また、表4には金花糖の木型を示した。表3でその他の模様をみると、記載があった中で「はとや」（小矢部）の4個が最も少なく、「島倉屋」（砺波）の400～500個と沢山の木型を持っている菓子屋があった。また不明という菓子屋

表1 富山県内18地区別における木型の平均所持数^{a)}

(個)

地 区	朝 日	黒 部	入 善	魚 津	滑 川	立 山	富 山	婦 負 郡	射 水 郡	新 湊	高 岡	福 岡	福 野	福 光	砺 波	小 矢 部	城 ^{b)} 端	氷 見	合 計
店 舗 数	2	1	5	7	3	2	11	4	4	3	5	2	1	7	4	3	2	5	71
平均 所持 数	17	39	56	27	10	128	51	120	65	253	38	3	0	56	136	68	0	72	16

注 a) 富山県内18地区は富山県菓子組合名簿による地区で表わした。

b) 城端地区にある田村萬盛堂の木型は平成13年度および平成14年度に調査済みのため除いてある。

表2 木型の紋様別種類

合計109種類

魚 介 類	10	鯛、海老、ハチメ、鯉、バイ貝、帆立貝、蛸、飛び魚、蟹、蛭烏賊
植 物	22	松、竹、梅、菊、蓮の葉・花・実・根、牡丹、桐、苔、三階松、笹、土筆、紅葉、瓢箪、桔梗、福寿草、桜、さがり藤、薔薇、紫陽花、楓、水仙、椿
動 物	8	鶴、亀、雷鳥、鴛鴦、千鳥、龍、蝶、子豚
果 物	12	桃、柘榴、バナナ、葡萄、蜜柑、苺、西瓜、林檎、枇杷、檸檬、パイナップル、柚子
景 色	8	日の出、四季、富士、月、波、四海、立山、福光町の型
有 形 物	12	五重塔、釣鐘、宝船、打出の小槌、鈴、俵、扇、ハート、香炉、花瓶、雪洞、杯
食 品	22	胡瓜、筍、椎茸、薇、松茸、なめこ、蕨、茄子、しめじ、豆、とうもろこし、人参、白酒、蓮根、蒲鉾、山芋、栗、豌豆、銀杏、生麩、寿司、干瓢
そ の 他	15	家紋、新川神社の紋、寺紋、学校関係記念(富山大学ほか)、社紋(北日本新聞社ほか)、絵画的な物、季節の花鳥風、月、水、藪、糸巻き、千歳、力士、福、寿、のし

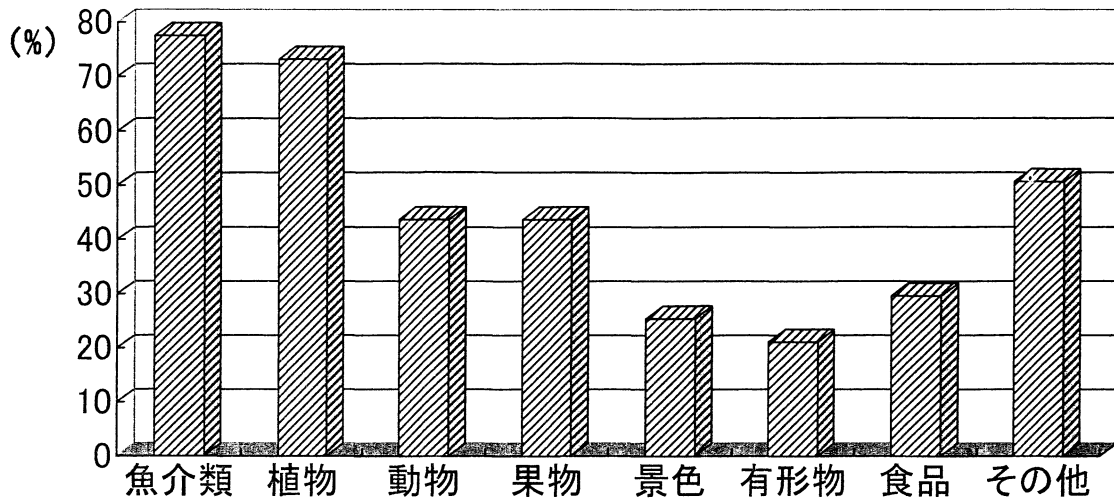


図2 木型の紋様別所持店

も見られたが、その訳には数え切れないほどの木型があること、古くからあったものを整理するまでには至らない木型であることなどが推察できる。富山県は信仰を大切にする土地柄であることから法会や仏事や祝事などにしんかん菓子（落雁）を供えるために木型を使ったのであろう。（写真2）木型の使用は少なくなったが、今は練りきりや桃山に使用していることも記載してあった。また林盛堂本店（婦負）では、韓国、中国の木型を収集し木型への深い思いを伺い知ることができた。

2 木型の実態

（1）かま屋

「かま屋」では、本学の慶事（卒業・入学時）用菓子として校章入りの祝い菓子を製造している。木型は昭和40年頃まで法事用に使用していたが、現在は使用していないということである。また、木型は当代の先代から使用しており、どのようにして入手したのか不明だそうだ。落雁にはあんこ（白あん）を入れて炭火で焼き、焼加減は長年の勘で作っているそうである。



写真2 一枚型木型による鯛、はす、はすの実などの落雁（登喜和所蔵）

表3 富山県内の落雁の菓子木型

地区		菓子屋	創業年	何代	落 雁 の 模 様								その他・個数
					魚介類系	植物系	動物系	果物系	景色	有形物	食品		
1	朝日	菓子処みずしま	昭和 15年	2	○	○	○						不明
2		とらや里水	昭和 39年	1	○		○	○		○	○		33個
3		黒部	木下製菓舗	昭和 61年	1	○	○	○			○	○	
4	入善	扇原清月堂	昭和 28年	2	○	○	○	○	○	○	○	○結び	不明
5		住吉松月堂	昭和 2年	3	○	○		○				○	100個
6		上田寿永堂	昭和 34年	1	○	○	○	○					29個
7		廣川製菓舗	昭和 5年	2	○	○		○		○	○		100個くらい
8		(有)おおわり	昭和 34年	2	○	○	○					○	50個
9	魚津	大崎忠(株)	昭和 21年	2	○	○							
10		正栄堂菓子舗	昭和 38年	1	○	○	○					○	75個
11		(有)島崎松月堂	明治 40年	3	○	○	○	○	○	○	○	○力士、水、家紋、 菊水、明治の金貨	57個
12		辻谷広末堂		3	○	○	○	○		○	○	○	
13		高橋菓子店	大正 10年	2	○	○	○	○			○	○	
14		ふくや菓子舗	昭和 40年		○	○	○				○	○	50～60個
15		フジタ	昭和 30年	2	○	○	○	○	○	○	○	○	
16	滑川	千保製菓舗 菓子工房 せんぼ	昭和 30年	2	○	○		○	○				21個
17		秋月堂	明治 30年	6	○	○							不明
18		三日月	大正 10年	5	○	○			○				8個
19	立山	尾近三豊堂	昭和 10年	2	○	○	○	○	○				43個
20		登喜和	昭和 20年	2	○								200～212個
21	富山	いしばし旭堂菓子舗	明治 30年	3	○	○	○	○	○	○	○	○ ホーボー	132個
22		福寿堂	昭和 23年	2	○	○	○	○	○	○	○	○	42個
23		大塚金泉堂	明治 24年	3	○	○	○	○	○		○		40個
24		御菓子処黒崎	昭和 25年		○	○					○	○学校、寺	16個
25		松屋菓子舗	昭和 元年	3	○	○	○	○	○		○	○法会	約40個
26		鈴木亭	慶應2年(1866年)	4								○いろいろ	10個
27		鉄扇堂	昭和 39年	1	○	○	○	○	○		○		20個
28		さくらい春景堂	明治 17年	6								○いろいろ	不明
29		大塚屋	昭和 8年	3	○	○	○	○			○	○字号	80～90個
30		日本堂	昭和 18年	3	○	○	○	○	○	○			50～60個
31		磯野屋菓子舗	昭和 8年	2	○	○		○	○		○	○法会	114個
32	婦負	コンドラ	昭和 27年	2	○	○		○					4個
33		(有)林盛堂本店	明治 10年	4	○	○		○	○			○日本、韓国、中国の型	417個
34		小蔵亀寿堂	昭和 21年	2	○	○	○	○	○				60個
35		柳沢屋	大正 15年	2	○	○	○						不明
36	射水	二俣屋	大正 元年	3	○	○		○					180～190個位
37		かまや菓子舗	昭和 10年	2	○	○	○	○			○		70個程
38		菓子司いしくろ	昭和 40年	1	○	○					○		
39		坂井聖光堂	400年前	6～		○				○			
40	新湊	大井旭堂	大正 3年	3		○						○校章	26個
41		竹泉堂	昭和 30年	1								○	433個
42		石黒松月堂	昭和 元年	3								○	推定200～300個位
43	高岡	惣大野屋	天保 9年	8	○	○	○		○	○		○家紋、寺紋、～記念、 学校関係、	81～142個
44		はやし菓子舗	昭和 5年	2	○	○	○	○	○	○		○	32個
45		松田屋菓子舗	昭和 12年	2								○長生殿	16個
46		こし村百味堂	昭和 20年	2									
47		天谷菓子舗(天吉屋)	慶應 2年	5									不明
48	福岡	長崎甘精堂	明治 20年	5	○								不明
49		松屋菓子舗	明治 20年	5	○	○	○					○五つ盛	5個
50	福野	朝山精華堂	不 明	6	○					○			
51	福光	大西屋菓子舗	昭和戦前5年	2～3	○								35個
52		菓子司 くぼや	昭和 36年	1	○	○							不明
53		菓匠 かじわ屋	明治 2年	7	○	○	○	○		○	○		160個
54		坂上松華堂	大正 4年	4	○								100個以上
55		御菓子司 森まつ	明治 4年	4	○	○	○	○		○	○		60個
56		松村松声堂	大正 3年	4	○	○						○福光町の型	30個
57		おかしの小西	昭和 元年	3	○			○			○		11個
58	砺波	島倉屋	明治 40年	3								○仏事、祝事が主	400～500個位
59		菓子処 あら木	昭和 38年	3	○	○	○					○香炉	20～30個
60		寺井菓子舗	明治 10年	5		○	○	○			○	○仏事、祝事	不明
61		村川菓子舗	昭和 46年	1	○	○	○					○	13個
62	小矢部	五郎丸屋	宝永 2年?	15	○	○				○		○いろいろ、家紋	何百
63		はとや	昭和 35年	2		○							4個
64		島長菓子舗	大正 2年	2								○いろいろ	100個以上
65	城端	溝口梅華堂	明治 38年		○	○		○					
66		(有)安居商店	明治 43年	3	○	○		○					不明
67	氷見	三國屋	天保11年～嘉永3年	8					○				1個
68		東京堂	昭和 34年	1	○	○						○法会、家紋	約100個
69		松木菓子舗	大正 13年	2	○	○							
70		村上松風堂	大正 12年	2								○仏事、祝事	285個
71		(有)山岸ちまき本舗	昭和 54年	1								○寺	不明

表4 富山県内の金花糖の菓子木型

地区	菓子屋	金 花 糖 の 模 様							
		魚介類系	植物系	動物系	果物系	景色	有形物	食品	その他
1	朝日	菓子処みずしま							
2		とらや里水							
3	黒部	木下製菓舗							
4	入善	扇原清月堂							
5		住吉松月堂							
6		上田寿永堂							
7		廣川製菓舗							
8	魚津	(有)おおわり							
9		大崎忠株							
10		正栄堂菓子舗							
11		(有)島崎松月堂							
12		辻谷広末堂							
13		高橋菓子店							
14		ふくや菓子舗							
15	滑川	フジタ							
16		千保製菓舗 菓子工							
17		房 せんぼ							
18	立山	秋月堂							
19		三日月							
20	立山	尾近三豊堂							
21		登喜和							
22	富山	いしばし旭堂菓子舗							
23		福寿堂							
24		大塚金泉堂							
25		御菓子処黒崎							
26		松屋菓子舗	○	○	○	○	○	○	○
27		鈴木亭							
28		鉄扇堂							
29		さくらい春景堂							
30		大塚屋							
31		日本堂	○		○				○たくさん
32	婦負郡	磯野屋菓子舗			○				○おわん
33		コンドラ							
34		(有)林盛堂本店							
35		小蔵亀寿堂							
36	射水	柳沢屋							
37		二俣屋	○	○		○			○ 30個余
38		かまや菓子舗							
39		菓子司いしくろ							
40	新湊	坂井聖光堂	○	○	○			○	○(?) 300個以上
41		大井旭堂							
42		竹泉堂							○ 数個
43	高岡	石黒松月堂							
44		(株)大野屋	○					○	○
45		はやし菓子舗	○	○				○	
46		松田屋菓子舗							
47	福岡	こし村百味堂							○ 100個
48		天谷菓子舗(天吉屋)							○いろいろ
49	福野	長崎甘精堂							
50		松屋菓子舗							
51	福光	朝山精華堂							
52		大西屋菓子舗							
53		菓子司 くぼや							
54		菓匠 かじわ屋	○	○		○	○	○	
55		坂上松華堂							
56		御菓子司 森まつ	○	○		○		○	
57		松村松声堂	○	○		○			
58	砺波	おかしの小西							
59		島倉屋	○						○(祝事) 30~40個位
60		菓子処 あら木	○						
61		寺井菓子舗							
62	小矢部	村川菓子舗							
63		五郎丸屋							
64	城端	はとや							
65		島長菓子舗							
66	氷見	溝口梅華堂							
67		(有)安居商店	○	○	○	○			○
68		三國屋							
69		東京堂							
70	氷見	松木菓子舗							
71		村上松風堂	○						○お雛様
		(有)山岸ちまき本舗							

（２）島田菓子舗

島田菓子舗は平成17年8月のお盆をもって店舗を廃業することになった。次の代へと菓子屋を継ぐことができなくなったために木型がいなくなったので見て欲しいと連絡があったのである。木型には松竹梅の1枚型、鯛の二枚型、桃、おしどりなどの金花糖の木型（写真3）など多数あり、それぞれの菓子木型にまつわる長年の思い出をご夫婦から伺った。写真3の木型は役立ててほしいといただいた木型の一部である。

3 木型にまつわる思い出

富山県内の菓子屋から菓子木型にまつわる思い出として多くの記述が書かれていた。ここにその思い出を原文どおりに掲載することにする。なお、（ ）には地区、創業年、現在の屋主の代を明記した。

おおわり （入善 昭和34年 2代）

最近では生活様式の変遷からか殆ど受注がない。年に1～2度位。婚礼引出菓子としてシーズンになると時々注文があるが年間では数える程度に減少。

扇原清月堂 （入善 昭和28年 2代）

昭和47年頃まで結婚式、新築祝、出産祝、法要等の引き出物によく使われたものです。現在ではかまぼこになりました。ほとんど使われていません。

長崎甘精堂 （福岡 明治20年 5代）

こちら西部地方では葬儀（七日）、法事に浄土真宗（東西）の門徒が多いためかざります。6角の棒筒に2本で一向、9枚ずつ18枚、一向といいます。

3代目、4代目（実父）まで木型は落雁、あんこによく使っていたが私の子供が中学生位にはあまり使われなくなりました（昭和40年代）。

松屋菓子舗 （福岡 明治20年 5代）

落雁を仕上げる乾燥室、木のホエロがあり炭火でゆっくりと固めたものである。

とらや里水 （朝日 昭和39年 1代）

昭和39年の開業共に落雁用の木型を買いました。落雁の型を使用したのはせいぜい3年ほどでした。私の記憶ではその3年の内に10回ほどの注文品を作っただけです。以後、木型は1度も使ったことはありません。現在倉庫にしまっています。

いしばし旭堂菓子舗 （富山 明治30年 3代）

釣鐘の木型は、或るお寺が釣鐘を新しく作られその落慶時に特別に新調したものである。数量は忘れましたが大量に落雁の注文がありました。しかしそれ一回限りの使用です。

現在使用しているのは、法会の佛前に飾るはすの花、葉の付け菓子の型、オケソク、詰め木型のオケソク（1年に1回、或るお寺へ1500ヶ位納入します）、新川神社の紋（正月、春秋の祭礼に納めます）、寺の毎年の行事に使用する（長寿山文字入り）。これら以外は現在使用していません。

松屋菓子舗 （富山 昭和元年 3代）

戦前は護国神社の春秋の例大祭、婚礼用、法会用や祝等に落雁、餡の注文がありましたが戦後は砂糖が配給にて手に入らず昭和28、29年頃より注文が入る様になりました。

昭和50年頃より落雁、餡より砂糖の方が多く

なり、今では砂糖以外は注文は殆どなく、戦没者慰霊用に法会用の注文がある（砂糖用）のが多い方であとは少々あるのみにになりました。

鈴木亭 （富山 慶應2年 4代）

落雁用は富山の気候上湿気が多く、需要減のため数十年使用していません。10点位上生用は、菊、鯛等大小5点位

思い出：木型を使うと同じ形になるがあんの色使いによって風情も変わる。

使用状況：需要減の為、毎年頻度が減ってはきているが最近では木型を使わず客のニーズに合った季節菓子を調整。

天吉屋 （高岡 慶應2年 5代）

使用しなくなってから100年近くの物もあり、型の蔵に仕舞い込んだままほこりにまみれ、まさに無用の長物ですね。今の店主の時代になり使用したものは昭和30年代前後、落雁の五品の大・小又式菓子の大・小は使用していました。現在使用している型は佛前用の花菓子だけです。金花糖の型等あるというだけでお目に掛けられないほどですよ。泥まみれですからね。

松田屋菓子舗 （高岡 昭和12年 2代）

糸巻き落雁（5cm×5cm×深さ0.6cm）現在は7月の茶席菓子に使用

福寿（仏壇の中の同付に使用）

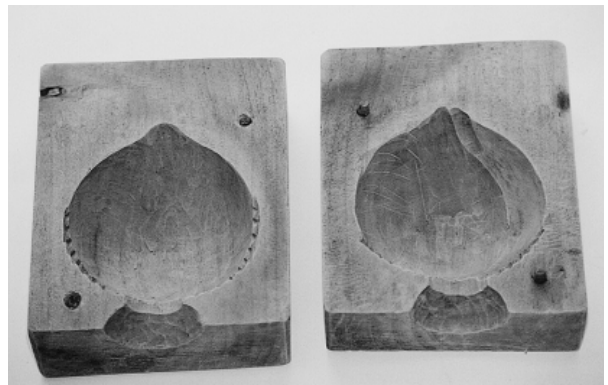
二次大戦の戦死された人の法事に多く使われたと思います。

島倉屋 （砺波 明治40年 3代）

昭和の30年頃までは毎日のように使用しましたがその後は段々へり現在では使用はありません。ひな祭りのかご盛（ひな菓子）が主であったが現在では1/10程度に減少。



おしどり（8.5×10.6×6.6cm）



桃（8.8×13.4×6.8cm）

写真3 金花糖の菓子木型（島田菓子舗）

村川菓子舗 （砺波 昭和46年 1代）

私の店は創業して日も浅く（創業は昭和46年）木型は少ししか持っていません。休業時代（10年間）は落雁、餡など木型を使う仕事は多くありました。今は昔ほど使用する事は少なくなりました。私の店では店より借りて使っています。時代も移り変わって昔の文化、物が変わってゆくのはさみしいものですが時代の流れかなと思う今日この頃です。

木下製菓舗 （黒部 昭和61年 1代）

落雁の形は今では使用する事はほとんどなくなりました。淋しいかぎりです。

島崎松月堂（魚津 明治40年 3代）

ほたるいか菓子は市内の西坂商店で古くより作られていて名物菓子でしたが、昨年祖父と父が相ついでなくなられたので廃業されましたので私の店で受け継ぐことになりました。私の家も昭和18年の大火で類焼したので昔の古い木型を大半焼失したと聞いている。

高橋菓子店（魚津 大正10年 2代）

木型はいろんな物を合わせて約60個位はあったと思います。約10年程前でしょうか、古美術商の方が来られて「ぜひ、譲って欲しい」との事で2枚程残して全部処分しました。現在は残っていません。昭和45年頃までは何かと注文があり落雁の型を使用していたように思います。

フジタ（魚津 昭和30年 2代）

昔は祝い事や法事にはかかさず落雁を作ったものですが若い人にはなかなか受け入れられない時代になりました。

三日月（滑川 大正10年 5代）

滑川の6つの河川を型どった型で10年ほど前まで銘菓として販売していましたが現在使用なし。

10年ほど前知り合いの方が県外で資料館を作るという事で型を50ほど分けてあげたので現在大小合わせて50ほどあると思います。

尾近三富堂（立山 昭和10年 2代）

昭和30年頃までは法会などに料理菓子としてよく用いられた。現在は蓮の花、葉が作られている。

登喜和（立山 昭和20年 2代）

戦前は結婚式、葬式、法事に落雁を必ず用いましたが戦後、結婚式にかまぼこが使われるようになり最近では法事に付け菓子として落雁が使われる程度です。

最近では法事の落雁も使われる機会が少なくなり、落雁の形をした砂糖落雁を使います。大きな木型は使われることがなく倉庫の奥で眠っています。高山あたりでは、外国人観光客などに売りに出されています。逆彫りは世界的にみても日本にのみ存在する技術です。逆彫りの職人は日本では10人前後と聞いております。最近ではコンピュータ制御機械を使って木型や金型を作っています。登喜和では一年に数度大きな木型を使って砂糖をつめた海老や鯛を作ります。年末になれば砂糖のお鏡も作ります。

坂井聖光堂（射水 400年前 6代～）

私がこちらへ嫁いで約四十数年経ちますけどその頃は祝用、佛儀用等はずっと落雁を作っておられました。例えば大きな鯛、ツル、カメ、ボタン、仏事にはハスの葉、花やれんこん、ハスの実等々、学校の祝事や寺の法事には祝やハスのうすい短冊の落雁等、いつも注文が入っていましたが時代と共に生の餡菓子になりそれも今では秋になりバームクーヘンとか洋菓子に変わってきました。でも今でも落雁の引菓子（家紋入）は注文があれば作っています。寺用（仏用）の付菓子は今でも作って店で売っています。

東京堂（氷見 昭和34年 1代）

昭和34年～平成8年迄とても木型を使うことがありました。当店は注文の仕事を主にしていたのです。現在はほとんど木型を使うことはありません。

大西屋菓子舗 （福光 昭和5年 2～3代）

昭和40年前程では金花糖をしたり、落雁菓子も多く作りました。現在は1年に1回程の注文がありなつかしく思います。

菓子司くぼや （福光 昭和36年 1代）

昭和50年後半頃までかしら、餡の鯛は誕生、結婚、初老の祝等に多いに使っていましたが結納などに1尺5寸もの大きなものを作ったこともありだんだん若い人に好まれなくなって今はほとんど使いません。

森まつ （福光 明治40年 4代）

現在、金花糖用の木型はほとんど使用していません。落雁用の木型もほとんどはあんこ用として使用しています。戦後、高度成長期には木型を使用したお菓子も多数、注文があったようですが現在はだんだん少なくなり木型を使用する機会も減少しています。

福寿堂 （富山 昭和23年 2代）

お菓子に関心を持って戴き私共としましては大変喜ばしい事で大いに歓迎します。その中でも木型というのなかなかクラシックでこの後どのように展開されるのか楽しみです。できるだけ協力したいと思っています。

大塚金泉堂 （富山 明治24年 3代）

富山大空襲に遭い、木型は全部焼失しました。更に戦後買った物も4～5年前に処分し、現在残っているのはほんの50個ほどです。

昭和29年ごろ富山市役所や郵便局、日本海ガスなどの新築落成祝のお菓子として紋の入った落雁を毎日、毎日製造しとても忙しかった事です。この木型は記念として残っています。

磯野屋菓子舗 （富山 昭和8年 2代）

私（53歳）が40代ぐらいまではよく生菓子の五種盛をするのに蓮の花などをよく使いました。私が20代の頃は父親が落雁で中に白餡を入れて法事用や祝事用によく使用していました。

はやし菓子舗 （高岡 昭和5年 2代）

父の跡を継いでこの仕事を始めたの約40年前は、冠婚葬祭の行事をする家庭がとて多く、行った場合には落雁や餡菓子などを引き出物として付ける習慣がありました。（多く付ける程、その家は甲斐性があるとされていました。とても富山県民らしいです。）現在のように仕事や招待客の都合に合わせ土・日曜日、祭日に行うというのではなく毎日のように何らかの行事がありとても忙しかったのを覚えています。洋菓子の広がりと共に落雁や餡菓子を食べる人も少なくなりました。現在は落雁や餡菓子はほとんど使われません。法事の時に仏壇にお供えする程度です。

上田寿永堂 （入善 昭和34年 1代）

初代ですのではほんの少ししか持っておりませんが一度に揃えることはできませんでしたので年に2～3個程ずつ用意しましたが時代が変わり使用する回数も減り、今では生菓子の型以外は全然使うこともなく物置にしまったままです。

千保製菓舗 （滑川 昭和30年 2代）

多くの木型も使用しないものが多く、移転の際に処分を行う。鯛や富士山等は見本として残す程度である。

林盛堂本店 （婦負 明治10年 4代）

落雁用（秋草紋）は李朝の紋様からとったも

ので現在青えんどう粉と小豆粉を使った落雁を作っています。趣味で集めた型 ①日本の型 明治戦前のもの200個、②韓国の型 李朝餅型 50個、③中国の型 150個

菓子司いしくろ（射水 昭和40年 1代）

創業時はよく使用したが現在は需要が全くない。法事に使うおけそくに付ける花菓子（付菓子）の型は現在もなくてはならぬ型です。

松木菓子舗（氷見 大正13年 2代）

氷见到井波彫刻の流れをくむ人がいるので電話で注文したり、私の希望を直接いって作ってもらえるので便利。昔（20年程前）は建前（家の新築）には鯛のあんこは沢山注文あったが今はほとんどかまぼこである。また法事には落雁の五つ盛がよくあったが今は1年に1回ほど。よって型を使うことはあまりない。使うとすれば、寺用紋型、上生茶席用型あんこで法事用の型です。

ラ・パイン松茶菓子舗（氷見 大正7年 3代）

現在はほとんど使用していない。

長野県より半年に1回ぐらい木型屋さんが来て木型の注文していた。その当時は案外値段も安く、お手軽に木型が買えたが今は必要もないし高くて買えなくなっていました。

五郎丸屋（小矢部 宝永2年 15代）

北日本新聞社の社紋を木型にしました。富山大学の木型もあります。

IV 菓子木型からみえる菓子文化の今昔

木型の思い出や現在の使用状況から考えると菓子木型は、昭和30年～40年頃にピークであったが時代の流れとともに私たちの生活様式から無用の物になっていったと想像できる。しかし、木型に用いられる逆彫りの技術は世界的に見ても日本にのみ存在する技術でありとても貴重なものである。木型を捨てずに保有している店としては、店が歩んできた歴史そのものである。すなわち、木型は大切な思い出として残している菓子屋が多く見られることがわかった。今後は、菓子文化の継承のため、菓子木型の保存について行政や関係機関での展示などで紹介することはできないものかと切実に願うのである。

V 終わりに

富山県内の菓子店にある木型の実態を調査し、実際に木型に触れ、早急にその歴史を物語る木型の保存を考えるべきだと感じた。木型の思い出には「引き取ってもらえるところがあれば譲りたい」とも書かれていた。このまま木型が埋もれ、捨てられて無くなってしまうことに大きな財産を失うような危惧感を覚えた。木型という菓子文化を支えてきた菓子屋がかかえる問題も浮き彫りになった。

本研究を終えるにあたり、快く木型を閲覧させて頂き、木型の製法などを親切に教えていただいた「かま屋」主人 釜 正一氏並びに木型を数点いただいた「島田菓子舗」主人 嶋田利勝氏に厚く感謝申し上げます。また木型の調査にご協力いただいた富山県内の菓子屋の方々に心から謝意を申し上げます。

参考文献

- 1) 杉木ゆかり、浜田佳代、阿部仁美、田中詠子、東野公子：平成13年度 第34期生 富山短期大学食物栄養学科 卒業論文集pp.43-44 (2002)
- 2) 高畑弥生、山形麻衣：平成14年度 第35期生 富山短期大学食物栄養学科 卒業論文集pp.31-32 (2003)
- 3) 岡本由香、勝田 幸、熊野亜矢子、清水麻梨子、森山雪乃、柳瀬裕美子：平成15年度 第36期生 富山短期大学食物栄養学科 卒業論文集pp.15-16 (2004)
- 4) 深井康子：菓子木型の形と歴史に関する基礎研究、富山短期大学紀要、第40巻、pp.51-62 (2005)
- 5) 虎屋文庫：第46回虎屋文庫資料展 菓子型の世界展、虎屋 (1990)